

ミズベリングかのがわ会議の活動

ミズベリングかのがわ会議は2014年11月に第1回会議が開催されました。狩野川流域の老若男女が意見を交わし、そこで出た意見等をもとに、狩野川の水辺をもっと楽しく、使いやすくなるような取り組みを進めています。ミズベリング狩野川の活動はホームページで随時、ご覧いただけます。



狩野川の魅力♡



ミズベリングとは

「ミズベリング (MIZBERING)」とは「水辺+リング (輪)」、「水辺+R (リノベーション)+ING (進行形)」というように、水辺に新たな意味を掛け合わせた造語です。ミズベリング・プロジェクトは「かつての賑わいを失ってしまった日本の水辺の新しい活用の可能性を創造していく」プロジェクトです。現在、全国各地で水辺の未来を考えるミズベリング会議が開催されています。ミズベリングオフィシャルサイト <http://mizbering.jp>

ミズベリングかのがわ会議オフィシャルサイト

<http://numazu-j.net/mizbering>

ミズベリングかのがわ会議事務局 (国土交通省沼津河川国道事務所)

ミズベリングかのがわ会議

第3回会議開催報告



開催日：平成28年11月26日(土)

会場：サンフロントミーティングホール(沼津市)

ミズベリングかのがわ第3回会議

今回の会議は、下流域である沼津市で開催されました。大学生たちが狩野川流域を巡るコースを考え、ツアー企画としてプレゼンテーションを行いました。

またワークショップでは、ツアー企画の実施に向け、より実践的アイデアを集めたり、狩野川の利活用について話し合いました。

狩野川で新しい取り組みがスタートした有意義な会議になりました。



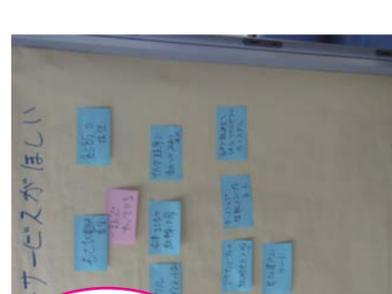
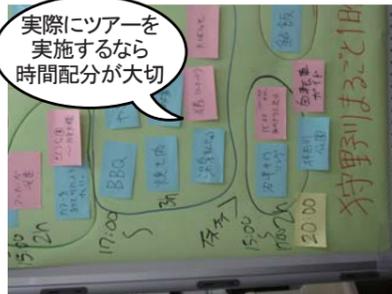
試行ツアー

中学生と大学生と一緒にミーティングを重ね、「女子旅」をテーマに狩野川流域を巡るツアー案を作成、地域の皆さんの協力を得てルートを検証する試行ツアーを実施しました。

狩野川を巡るツアーのアイデア

ミーティングでは、中学生たちのアイデアをヒントに狩野川流域の豊富な地域資源を改めて調べて、女子旅をテーマにツアー参加者が楽しめる内容を検討し、コースを設定しました。さらに設定したコースを実際に巡る試行ツアーを実施し、各スポットでのもてなし方や、問題点をチェック。所要時間なども確認しました。

- 試行ツアーで検証した狩野川を楽しむキーワード
狩野川のアユ、天城山一帯のワサビ、多彩な農産物
- 狩野川を体感できるアクティビティ
狩野川の自然を満喫できるカヌーやサイクリング、アユのつかみどり、農産物の収穫体験



狩野川のにぎわいを、より広めよう！
そして上流でも

会議の様子

会議では、ミズベリング狩野川の活動状況など活動発表を行い、ミズベリング狩野川の「今」を確認しました。その後、大学生たちが「狩野川女子旅ツアー」のコンセプトについてプレゼンテーションを行い、参加者全員で、プレゼンテーションの中身について、話し合うワークショップを行いました。



ミズベリング狩野川から新たな動きが始まりました！ かのがわ女子旅ツアー プレゼンテーション

大学生たちが実際に内容を検証した「かのがわ女子旅」の実施に向け、大学生たち自らが参加者にむけてプレゼンテーションを行いました。

プレゼンテーションの内容は、狩野川の魅力を広く一般に伝えるため、情報発信力の高い女性をターゲットにするというコンセプトのもと、ツアー内容を設定し、2017年にツアーを提案するというもの。ツアー参加者を「かのがわ女子」として、ツアーを開催する度に「かのがわ女子」を増やし、狩野川の魅力をfacebookやインスタグラムで発信してもらう活動や「かのがわ女子」による狩野川流域でのイベント時のカフェの運営などのプロジェクト展開を提案しました。



「かのがわ女子」提案内容

- ツアーの実施時期：
・ゴールデンウィークや富士山が冠雪した秋（カヌーのオフシーズンを利用）
- ツアーのスタイル：
・狩野川流域をまわる1泊2日のパッケージツアー
- ツアーにむけて：
・ツアーを運営する「かのがわ女子」の設置
・地元の旅行代理店や観光協会などの団体と連携

ツアーの運営や、狩野川の利活用マナーについて参加者のアイデアを集結！ 「かのがわ女子旅」、「狩野川の利活用マナー」ワークショップ



ワークショップでは、大学生が考えた「かのがわ女子旅」の実施に向け、参加者がバックアップ出来る内容について意見を集めました。また「かのがわ女子旅」を含め、狩野川を利活用する際に必要なマナーや啓発活動についても話し合いました。

【狩野川の利活用するにあたってのマナーに関する意見】

- ・堤防を通行する場合は、自転車は左側通行にする。
- ・堤防を通行の際は、自転車利用者、歩行者がともに声を掛け合い、挨拶をする。
- ・外国人がレンタサイクルを利用する場合に、交通ルール、マナーがわかる様なものが必要ではないか。
- ・イベント開催時は、企画者が安全管理も行う必要があるのではないか。

【ワークショップ参加者】

地域、自治体、観光協会、旅行者、NPO法人、中学生、高校生など総勢約50名が参加しました。